

令和4年度

北海道教育大学

附属函館幼稚園だより

NO. 13【号】



絵本に内在する言葉と行動への効用

附属函館幼稚園園長 外崎紅馬

『おはよう』（さかいようすけ、いろは出版）というタイトルの絵本がある。このお話は、冒頭の登場人物が近所のおばあちゃんに「おはよう」とあいさつをすることから始まる。おばあちゃんはいさつをされたことであたたかい気持ちになり、周囲のためになるちょっといいことをする。その姿を見た別の誰かがやさしい気持ちになり同じように周囲にちょっといいことをする。それを見た別の誰かがまた・・・といったふうに、やさしさや思いやりなどの暖かい気持ちとそれにとまなう行動がどんどん伝播していくという内容である。

作者であるさかいようすけ氏は、この絵本のあとがきで次のように述べている。

「日々の生活のなかでの、ささやかな言葉や行動が誰かをハッピーにしたりブルーにしたり、そんなハートのリレーが毎日繰り返されて「今日」ができていくような気がします。

そしてそれは知らないところで自分にもかえってきている。」

自分の発したささやかな言葉や行動が、めぐりめぐって自分にかえってくる。うすうすそう思っている、日々の生活の中でその実感はなかなか得にくいかもしれない。なので、それを信じるしかない。

そのため、氏はさらにこう続ける。

「おはようと言えた朝と言えなかった朝
その違いは言葉にするのはむずかしいけど
たしかにあると思っています。」

誠実な言葉や行動は周囲をハッピーにする。反対に無責任な言葉や行動、嘘をとりつくりようような態度や自己保身のために他者をおとしめるような言動は周りに失望を与えブルーにする。

あとがきの最後はこう締めくくられている。

「ハッピーをあなたから」

教育に携わる者として、ひとりの人間として、この言葉を肝に銘じ、日々の生活のいかなる場面でも心に保ち、行動として実践することを心がけたい。

